

# 名古屋工業大学男女共同参画推進センター ニュースレター

# Vol.2

2015.07

## CONTENTS

1. REPORTS 3～6月の活動報告
2. INTERVIEW  
橋飼裕之学長「名工大の男女共同参画の実現に向けて」  
石川有香副センター長「女性の学内ネットワークの形成」
3. ACTIVITIES  
i-cafe、WLB 相談室リニューアルオープン
4. INFORMATION
5. 彩織-SAYA-だより

## REPORTS

## 3～6月の活動報告

### 3

March



【16日、23日、24日】  
NHK名古屋放送局が「OG人財バンク」を取材

武藤敦子助教と研究支援員の坂田美和さん、藤岡伸子センター長が研究支援員制度とOG人財バンクの取組に関して取材を受けました。

【25日】  
学長特別褒賞「女性が拓く工学の未来賞」表彰式

第一回受賞者の小幡亜希子准教授（大学院未来材料創成工学専攻）は、セラミックバイオマテリアルに関する研究分野において、国内外から注目される研究者です。小幡先生の更なる活躍に期待します。



【27日】  
英語論文・プレゼンテーションセミナー開催

野口ジュディー津多江教授（武庫川女子大学薬学部）によるセミナーが開かれ、研究者と学生26名が、コーパスの活用やポスタープレゼンテーション等を学びました。



### 4

April

【1日】  
センター事務室とi-cafe、WLB相談室を移設  
新規「一般事業主行動計画」を策定  
（平成27年度～平成30年度）

### 4

April

【2・10日】  
NHK「ほっとイブニング」「おはよう東海」「News Web」でOG人財バンク、OG研究支援員について放映

【15日】  
「一般財団法人トヨタ女性技術者育成基金」からの奨学給付制度説明会開催

【30日】  
「名古屋工業大学女性研究者の会」設立

### 5

May

【20日】  
男女共同参画トップセミナー「女性研究者と大学の活性化」開催



学長、役員、教育類長、専攻長をはじめとする人事企画院構成員を対象に開催されました。JSTの山村康子プログラム主管に、本事業の一層の推進と、男女ともにその能力を発揮できる研究環境の実現に向けて講演いただきました。

### 6

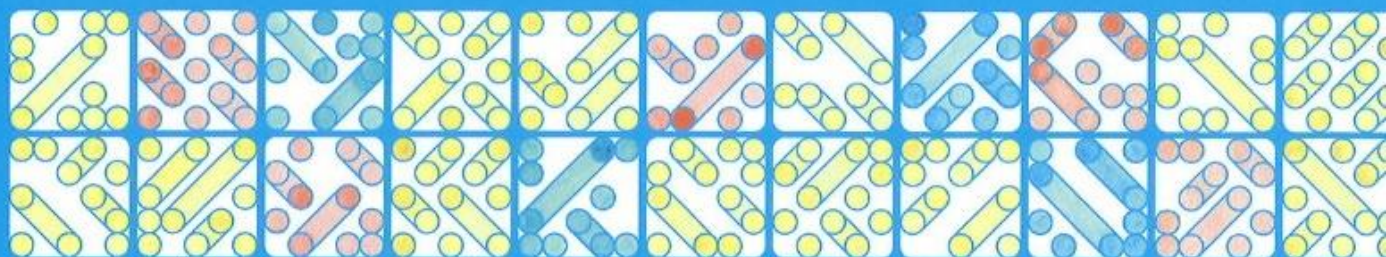
June

【1日】  
本学の「ベビーシッターによる育児支援実施要項」策定、実施

【3日】  
「一般財団法人トヨタ女性技術者育成基金」の担当者による個別相談会を開催

【13日】  
オープンキャンパスに、彩織～SAYA～と参加





## INTERVIEW

## 鶴飼裕之学長「名工大の男女共同参画の実現に向けて」

**名工大の男女共同参画の実現に向けて、どのような課題があるとお考えですか。**

まず基本的に、女性であるか男性であるかの区別は全く研究者のレベルではないはずです。なのに、なぜ女性研究者が少ないのだらうと考えた時、やはり女性のキャリアパスというのがこの社会の中にできていないことが考えられます。今後、大学として、女性のキャリアパスを作っていく、ということが女性の活躍の場所を提供するための一番大きな課題ではないでしょうか。



**女性研究者のキャリアパスを考える上で、障害ともなりうるライフイベント中の方に対する支援をどのようにお考えですか。**

出産というのも大切な仕事のひとつです。最近では、男性が出産に立ち会うことも含め、妊娠中も女性だけが全てを負担するのではなく、男性も協力していく必要があります。

ただ、女性は出産の前後数か月間は職場から離れざるをえないというのは事実ですから、その期間にも研究を継続できるようなサポートを行うことは、大学や職場の問題だと思いますね。つまり、切れ目が無いように研究を継続していきける措置をとることです。

研究支援員をつけるのも一つの手ですし、在宅でも研究を続けられる措置をとることも必要です。産前のサポートに関しては、もう少し具体的に考えていく必要があります。例えば、自宅で作業しながらでも研究を継続できるような分野の方と、実験主体の方では必要なサポートが違います。それぞれの研究分野に合ったきめ細やかな配慮をしていけば、その

期間のサポートはかなりできるのではないかと思います。

しかし、問題は産後休暇後です。幼稚園や保育園に子どもを入れるまでは手元におきたいので、育休を取るという考え方の人もいる一方、0歳から預けて復帰する方など色々な考え方があります。

大学として、それぞれの方の事情に合わせて、どのようにサポートしていくかを考えていかなければなりません。

**ご自身のワークライフバランスに関して、どのような点を心掛けていましたか。**

私は共働きでしたので、やり繰り算段、実家も含めて子供を預けながら家事にも子育てにも参加していました。

私は、父親と一緒に飯を食う時間、一緒に風呂に入る時間を作るのが理想だと考えておりますが、それを可能にしたのは大学に隣接した公務員宿舎でした。実際に、家族と過ごした後、子供を寝かせてから研究室に戻るという生活しており、その時は大変でしたが、子どもと過ごせたことは幸せでした。私の場合は、職住接近をうまく使い、子育てや家事に少しでも参画することができました。

このように、研究者というのは裁量労働ですから、女性に限らず男性も研究者である環境をうまく使えばワークライフバランスの取れた生活の実現も可能だと思います。そして、パートナーと話し合いながらそれぞれの条件に合わせて工夫していく必要があると思います。

**名工大の男女共同参画の実現に向けて、どのような施策をお考えですか。**

まずは、いかに女子学生の比率を上げて、女子学生を技術者や研究者にしていくなかというキャリアパスを作るかが、これからの仕事だと思います。

幸い、今年度入学者（工学部一部・二部）の女子学生比率は16.1%でした。しかし、今後、その比率を20%までに引き上げるのは、たやすくはないでしょう。それは、学科によって伸ばせる分野と伸ばせない分野があるからです。

例えば、女子学生が現在30%程度を占める分野でも、今の世の中に用意されている女子学生のキャリアパスを考えると、女子学生比率を50%にすることは現実的ではありません。しかし、それが例えば40%ぐらいですと、彼女たちが実際に必要とされている職種へ向かえるよう、私たち教職員がうまく指導や、研究分野の視野を広げていくなどして導くことは可能なはずですが、一方、女子学生の少ない分野では、まだ女子学生の採用率は20%にも達していないと思います。ただ、製造業も積極的に女性の採用を行ってしますので、15%ぐらいまでは伸ばせるでしょう。そうすると、女子学生全体の獲得目標を20%とすることは夢ではありませんので、今後はそれに合わせた具体的な方法を考えていきたいと思っております。



それからもう一つ、研究者を育てることも必要です。そのためには女性研究者のプレゼンスをあげて学生に対するロールモデルとして見せていく必要があります。そして、それだけではなく、優秀な研究者を獲得して数を増やす必要もあります。企業の研究者の中には、大学の中で活動したいという人もいらっしゃるし、企業側も共同研究の一環の中で女性を大学に派遣することが可能な場合もあります。その方たちと交流することにより、大学の研究者だけでなく、企業の中の研究者になることも学生の目標設定の一つとなってくるでしょう。

女性研究者を増やす方策としては、育てること、優秀な研究者を獲得すること、企業型の研究者を招致することの3本立てが具体的ではないでしょうか。



## INTERVIEW

## 石川有香副センター長「女性の学内ネットワークの形成」

石川先生のこれまでの研究活動に関して教えてください。

私は、ことばがどのように学習され、どのように使用されていくのかということに興味を持っています。言語教育は、これまで、「勤と経験」に頼っていた部分がありましたが、今では、言語学・言語工学・心理学・社会学といった関連分野の発展に伴って、サイエンスとして捉え直すことが可能となっています。私も、大規模コーパス（言語データベース）をコンピュータで分析して、言語に内在する特性や、発話者の特性を客観的に把握する方法を研究しています。

さまざまな分野の中でも、言語教育の分野は、特に女性研究者が多い分野ではないかと思います。私自身、女子大出身で、男性の先生からだけではなく、女性の先生方からも、言語教育研究の手ほどきを受けて参りました。そのため、自然な形で研究職を目指すことができたように思います。もし、先生も、大学院の先輩も、男性ばかりという状況であったなら、なかなか決断ができなかったのではないかと思います。その点においては、早い段階から自分の将来像を描くことができ、大変恵まれていたと感じております。名

工大の女子学生にも、同様の環境が与えられるよう、整備していくことが重要だと考えています。



ご自身のワークライフバランスに関して、どのような点を心掛けていましたか。

よい研究を行うためには、持てる時間をすべて研究につき込むほうがよいと考えている学生の方が多いと思います。短期的に見れば、たしかに、それがあてはまる部分もありますが、研究の仕事は息の長いものです。長期にわたって、無理なく、研究ができる環境が必要だと思います。何かを犠牲にする研究ではなく、生きていくうえで必要な事柄とうまく調和をとった上で行われる研究が、究極的には、よい研究につながるのだと考えています。

私自身は、時間の使い方が下手で、思

うように研究が進まないことが多いのですが、よりよいワークライフバランスを確立して、少しでもよい研究ができるよう努力していきたいと思っています。

女性研究者の会が先日発足しましたが、どのような想いや期待がありますか。

これまで、名工大の女性教員には、自分の意見や考え方を自由に交換できる場が存在していませんでした。昨年度、名工大では、「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、プロジェクトが動き出したので、これを機会に、女性のネットワークを形成することで、機軸の力を使って、女性研究者の支援活動を前へ進めていくことができたらいいのではないかと考えております。今後、名工大全体で、男女共同参画を推進していくためには、できるだけ多くの方の声を集約していくことが重要であると思いますし、この会がそうした場になればと期待しています。

私自身、名工大に勤めて10年になりますが、自分の専門分野に近い先生方とお話する機会は多いものの、異分野の先生方と知り合う機会は、ほとんどありませんでした。女性教員や女性技術職員を緩やかにネットワークしていく今回の試みを、個人的にも楽しみにしています。

## ACTIVITIES

## i-cafe、WLB相談室がリニューアルオープン

4月1日、センター事務室が11号館2階に移転するのに伴い、i-cafeとWLB相談室も同館3階に移転しました。

i-cafeは、「繋ぐ・集う・学ぶ・発信する」機能を備えた開かれた交流サロンを目指しています。リフレッシュスペースとしてだけでなく、セミナーやゼミ、ミーティング、小規模なポスターセッションなど、女性研究者をはじめ、研究者の皆様幅広く利用いただけるような、設備の拡充と空間づくりに努めました。

また、i-cafe内に、プライバシーが確保できる個室のWLB相談室を設置しています。ここでは専属の相談員が研究とライフイベントとの両立、子育てや人間関係など、あら

ゆる悩みのインテークを行い、問題解決と誘導に努めます。なお、必要に応じて連携する保健センターやハラスメント相談員とも協力して、迅速な問題解決を目指しています。女性研究者だけでなく学内全ての方が相談可能です。

i-cafe、WLB相談室ともに利用希望の方は、男女共同参画推進センターまでお気軽にお問い合わせください。



## 相談員の菊池美由紀さん



育児・介護中は、今までとは違う仕事のやり方や心構えが求められると思います。そんな中、自分の悩みや思いを言葉にしてみるだけで、気持ちが変わったり、考え方が変わったりするかもしれません。

私自身、2人の子供を育てながら時間や役割の葛藤を日々抱えています。皆さんと一緒に考え、問題解決のお手伝いできればと思います。





## 理化学研究所小野義正先生から学ぶ「科学英語論文の書き方セミナー」を開催します

日時：8月3日（火）

10：30～14：30（昼休憩含む）

場所：3号館2階0323講義室（予定）

講師：小野義正氏

（理化学研究所 客員主管研究員）

対象：女性研究者、若手男性研究者、大学院生

内容：

10:30～12:00 科学英語論文の書き方 1

「英語の発想法と論文執筆の鉄則」

12:00～13:00 昼休憩

13:00～14:30 科学英語論文の書き方 2

「英語論文の作文技術と文法事項」

## 発行 名古屋工業大学男女共同参画推進センター

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 TEL | 052-735-5121

URL | <http://www.nitech.ac.jp/gender/> E-MAIL | [danjokyodo@adm.nitech.ac.jp](mailto:danjokyodo@adm.nitech.ac.jp)

## 彩綾～SAYA～だより

名工大女子学生団体 彩綾～SAYA～は、私たち名工大女子が学科や学年をこえて繋がり、私たちらしく輝ける場を作ることを目的とし、2014年10月に結成されました。女子学生が学校生活を楽しく過ごしたり、女子学生同士の交流の場を増やしたりできるよう、女子学生向けの情報誌の発刊や、イベントを行っています。今回はその中でも、新入生歓迎会と、ロゴとシンボルマークの完成について紹介します。

## 新入生歓迎会を開催しました！

発足後、初めての新入生の勧誘活動として「新入生歓迎会という名の女子会」を4月16日に行いました。

発足してから間もない私たちは、「全学年の女子学生に彩綾～SAYA～について楽しみながら知ってもらおう！」とこの会を企画しました。まずは、一人でも多くの学生に私たちの存在を知ってもらうため、作成したチラシを掲示し、新入生に配りました。その甲斐あって、当日は30人を超える人が集まってくれました！

女子会ではいくつかのグループに分かれ、お菓子を食べながらのんびり楽しく、バイトや一人暮らし、授業の相談、そして恋愛話などに花を咲かせていました。



この会を通して、彩綾～SAYA～では楽しみながら学科・学年を超えた縦・横・斜めのつながりを作れることを伝えられたと感じています。また、彩綾～SAYA～と新入生のつながりだけでなく、新入生同士の新しいつながりもでき、大成功の女子会だったと思います！

今回の女子会の参加者から、学部1年生7人と大学院1年生1人がメンバーに加わり、新メンバーと共に今年度も元気に活動します！（建築・デザイン工学科4年 高橋信子）

## ロゴとシンボルマークが完成しました！

これまで私たちには、決まったロゴやマークがありませんでした。そこで、今年の2月に、藤岡研究室の井上香菜子さん（当時社会学専攻M2）にロゴとシンボルマークの作成をお願いしました。井上さんはNIT Design Projectにも所属し、大学概要の表紙などの大学公式広報だけでなく、企業へのデザイン提案の経験もあるため、本格的なデザインをしてもらえることに一同とても喜びを感じました。

何度も打ち合わせを重ね、「彩綾～SAYA～の現在のイメージ」や「今後私たちが目指す姿」、「ロゴやシンボルマークを通して表現したいこと」について話し合いながら、それらを形にしていきました。



①名前の由来である「いろんな色（学科）の名工女子が、綾織のようにしっかりとつながる」という意味から、シンボルマークは綾織がイメージされています。ロゴの交わっている部分も織物を意識しています。

②ロゴの文字は直線で描かれていて名工女子（リケジョ）としての強さを出している一方で、角を丸くすることで女子らしさが表現されています。

③色は彩綾のテーマカラーのビビッドピンクです。

他にも、井上さんの細かな工夫があると思いますので、今後、イベントのピラや冊子で見かけることがあるかと思いますが、ぜひそんな部分にも注目してみてくださいね。

（物質工学専攻M1 高士文香）